

相愛大学 研究論集

第8巻

目 次

ショパンのプレリュードの研究 ——ポーランド国立図書館蔵の自筆譜の研究Ⅷ——	佐藤 允彦 (1)
音楽の分析(或いは解釈)について ——比較美学的省察——	酒井 諄 (29)
チョムスキーの「標準理論」再考	後藤田輝雄 (41)
日本語における漢字の役割について ——英語・中国語との情報量による比較から——	横原 恭士 (59)
罪深き愛——王妃イソルデと藤壺の宮——	斎藤美美子 (71)
<i>If I Forget Thee, Jerusalem</i> の構造	山下 昇 (87)
植民地統治期グジャラート農村経済の変容	今田 秀作 (97)
An Impressionistic Approach to the Maya Arts and the Hieroglyphic Writing System	石原 敏 (119)
A Longitudinal Study of One American Child's First Language Acquisition	野中 慶子 (137)
The Cinema and the Great War	<i>Alan Fisher</i> (149)
Transnationals, Transculturals: Dilemmas of Identity in an International Age	<i>David B. Willis</i> (161)
In Search of the Picturesque and the Sublime: The English Romantics and the Lake District	<i>Teresa Bruner Cox</i> (189)

『投贈和答等諸詩小序』について	藤木 英雄 (244) [1]
『弄璞集』補注	
——「秋夕和歌」について——	中西 健治 (230) [15]
清沢満之の回心に関する一考察	北野 裕通 (220) [25]